

少ない点や、4~6 cm以下の個体が採集できなかった点など問題点も残されている。今後初期幼魚の動向を別の方法で調べる必要がある。

なお、食性を把握するための胃内容物調査も同時に実施しているが、現在サンプル処理中である。

4 ミナミクロダイ及びハマフエフキの放流

<ミナミクロダイ>

当支場で種苗生産したものを1980年7月9日に7,018尾、保護水面内に放流した。放流時の魚体は、平均尾叉長9.4 cm、平均体重19.1 gであった。放流魚には15 mmのアンカータグを装着し、水深約2 mの浅瀬に放流した(図-10)。

放流直後は、放流場所周辺の底層に群らっていたが、翌日には、図-10.に示した①~④の地点に移動していた。②~④は小川の河口域で沖縄独特のマングローブ地帯である。7月中、②~④の各地点にミナミクロダイは残留していたが、マングローブ域の小さな②、③ではその後、見られなくなった。④には以降も生息が認められている。1981年2月1日に④で再捕されたものは、平均尾叉長12.4 cm、平均体重37.7 gになっていた。

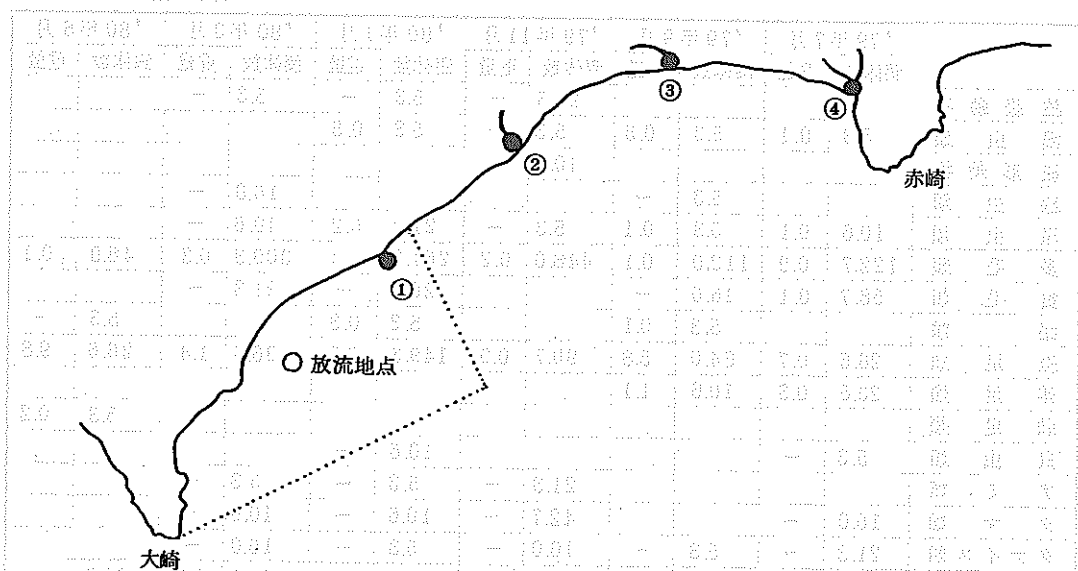


図-10. ミナミクロダイとハマフエフキの放流地点とその後の分布

<ハマフエフキ>

当支場で種苗生産したものを1980年9月25日にミナミクロダイの時とほぼ同じ地点に放流した。放流サイズは、平均尾叉長で8.6 cm、平均体重で13.0 gであった。また放流数は3,050尾であり、全てに15 mmアンカータグを装着した。